| 平成 24 年度　シラバス | 学年・期間・区分 | １年次 ・ 休暇中実施 ・ 選択 |
|---|---|---|
| | 対象学科・専攻 | 機械・電子システム工学専攻 |
| 特 別 実 習 A<br>（Advanced OJT A） | 担当教員 | 機械・電子システム工学専攻長 |
| | 教員室 | |
| | E-Mail | |
| 教育形態／単位の種別／単位数 | 実験・実習 ／ ――― ／ ４単位 | |
| 週あたりの学習時間と回数 | 4 週間（実習時間 150 時間〔実習（450 分）×20 日〕以上） | |

〔本科目の目標〕　約 4 週間の期間を持って企業に出向き、会社での業務に触れて実社会での活動を体験し、また実学的な経験を会得する。

〔本科目の位置付け〕　これまで、主として、座学によって学んだ理論あるいは工学実験で学んだ事柄が、実際の企業でどのように応用されているかを理解する。また、実社会における技術者としての心構えを体得する。

〔学習上の留意点〕　企業では、学生のために時間と労力を割いて下さるので、その事を念頭に、礼儀に失する事なく社会人としてのマナーを考えながら行動する事。また、実習中は積極的に質問する事に努める。実習内容に関して、事前に調査し、準備をしておくこと。

〔授業の内容〕

| 授　業　項　目 | 時限数 | 授業項目に対する達成目標 |
|---|---|---|
| 原則として、<br>協力企業に約 4 週間程度出向き、受入企業から提供される実習テーマに基づいて実習を行う。 | 4 週間 | □ (1) 技術者としての社会的責任を自覚し、職業意識の向上を図る事ができる。<br>□ (2) 与えられた実習テーマに対し、これまでに学んだ専門的知識や現場での学習をもとに課題を解決し、まとめる能力を養う事ができる。<br>□ (3) 技術者が直面する産業社会での問題点や課題を理解する事ができる。 |

〔教科書〕
〔参考書・補助教材〕　出向企業での各種パンフレット、カタログ、資料等

〔成績評価の基準〕　企業での実習評価、成果発表及び報告書により評価する。
企業の評価（60%）＋報告書の評価（20%）＋成果発表の評価（20%）

〔専攻科課程の学習・教育目標との関連〕　2-2 , 3-3 , 4-2
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕　2-2 , 3-3 , 4-2
〔JABEE との関連〕　(b) , (d)(2)c) , (d)(2)d)

*Memo*